

● 平成30年度に実施した自校の学力調査結果 (単位: %)

平成30年9月6日  
墨田区立登川中学校

教科	観 点	墨田区学習状況調査結果						全国学力・学習状況調査			
		第1学年		第2学年		第3学年		3年A	3年B		
		目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	目標値	本校平均正答率 全国平均正答率	本校平均正答率 全国平均正答率	本校平均正答率 全国平均正答率		
国語	国語への 関心・意欲・態度	59.4	63.3 57.3	60.6	66.9 59.6	72.2	77.3 74.2	/	50.6 50.3		
	話す・聞く能力	60.4	63.8 60.6	77.5	88.3 81.1	79.0	81.4 83.2		79.7 75.2	79.2 76.6	
	書く能力	55.0	59.9 51.7	50.6	56.3 47.2	62.5	70.4 64.0		73.7 73.9	29.9 31.3	
	読む能力	56.3	62.4 56.7	52.6	59.2 52.9	52.1	49.5 51.0		77.6 76.7	53.9 53.5	
	言語についての 知識・理解・技能	67.6	75.8 70.5	73.7	78.6 75.8	63.8	60.9 64.2		75.3 76.5	42.9 49.2	
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	52.3	57.6 52.7	51.7	51.6 54.1	57.0	59.9 59.3	/	/		
	社会的な 思考・判断・表現	58.5	68.1 61.0	45.8	46.9 47.8	50.6	52.7 53.3				
	資料活用の技能	52.2	55.1 51.1	51.3	46.1 52.3	55.2	50.3 55.9				
	社会的事象について の知識・理解	58.7	62.0 58.7	54.0	44.7 54.3	57.6	55.3 58.1				
数学	数学への 関心・意欲・態度	66.4	75.7 68.0	46.7	55.3 46.8	40.5	38.2 36.4	/	/		
	数学的な見方や考え方	65.8	76.6 67.0	48.1	54.9 48.0	43.9	43.4 40.4			39.5 45.1	
	数学的な技能	76.7	85.8 76.7	60.8	72.8 61.2	60.5	66.0 59.8			66.8 70.4	44.8 51.3
	数量や図形などに ついての知識・理解	66.6	74.4 67.2	54.1	63.3 54.0	57.1	59.9 55.9			59.1 63.3	
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	57.6	59.0 55.6	49.8	44.7 47.5	52.4	41.4 44.8	77.9 74.0	/		
	科学的な 思考・表現	58.9	60.5 57.3	50.1	47.6 49.0	53.1	40.9 46.1	62.2 64.9			
	観察・実験の技能	60.6	54.6 59.5	58.6	52.9 55.2	53.1	35.9 44.0	59.4 67.0			
	自然事象について の知識・理解	61.9	66.1 59.4	57.5	52.1 56.6	57.4	50.2 53.4	63.8 68.7			
英語	コミュニケーション への関心・意欲・態度			58.0	60.8 55.2	63.0	66.5 61.2	全国学力・学習状況調査の理科については、A(知識)とB(活用)を一体的に問う調査を実施した。			
	外国語表現の能力			48.4	49.3 43.7	48.4	53.0 43.7				
	外国語理解の能力			61.1	64.6 59.4	63.3	66.0 63.1				
	言語や文化について の知識・理解			50.4	48.2 44.0	60.4	66.0 59.3				

- 1) 目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合を示したものの。観点ごとの目標値は、設問ごとに設定された目標値をもとに算出されている。
- 2) 平均正答率：正答率の平均値のこと。観点における学年のデータとして用いる際は、その観点の全設問における学年集団の正答率の平均値。なお、正答率を算出するうえで、記述・論述式問題の準正答(部分点)については、正答数を0.5として換算している。

● 自校における調査結果の分析

3学年は全ての教科の観点において、昨年度よりも全国平均を上回った数が4観点増えている。数学において、昨年度は関心・意欲・態度と知識・理解の観点が全国を下回っていたが、今年度は+1.8、+4.0と上回った。また英語においては、昨年度は外国語表現能力が全国より下回っていたが、今年度は+9.3と上回った。

2学年は全ての教科の観点において、昨年度よりも全国平均を上回った数が1観点増えている。数学において、昨年度は全国平均より関心・意欲・態度、見方・考え方、技能、知識・理解それぞれの観点が+4.4、+5.5、+4.4、+2.7と上回っていたが、今年度はさらに+8.5、+6.9、+11.6、+9.3と上回った。

1学年は全ての教科の観点において、17観点中16観点が全国平均を上回っている。

2. 3学年の社会と理科の観点は全国平均よりも下回っている観点が多く、また1学年でも理科の観察・実験の技能の観点が約5ポイント下回っていることが課題である。

改善策として、①理科においては、観察・実験をもとに話し合いを充実させICT等を活用する。また、考え・解る理科を目指し、日常生活と理科との関わりを多く取り上げていく。②社会においては、資料活用の技能と社会的事象についての知識・理解が全国平均よりも下回っている。授業で学んだ内容の定着・維持が不十分であるため、家庭学習の充実を図り全国平均値に引き上げていく。

全国学力調査の国語では、A、Bともに「話す・聞く」、「読む能力」が全国平均より上回った。また、理科では「自然事象への関心・意欲・態度」が上回った。

※ 今後、調査結果の詳細な分析を行い、「学力向上を図るための全体計画」(学校としての学力向上プラン)を9月末までに公表する予定です。